

——本当に除染が必要かどうか疑問である。

町内の全部を除染することは膨大な費用と労力を要する。優先順位の高いほうからやるべきだと考える。また遠距離になるほど放射線量が低減し、影響はなくなると言われており、実証実験などを行いながら除染計画を策定していきたい。

——除染により出た廃棄物の仮置場として、すでに場所が決定しているといううわさがある。

町外に持っていくことはできないので、町内に仮置場を設置することにはなる。27行政区すべてに仮置き場を作るのが理想であるが、現実的には難しい。健康被害がないことを前提に、国有林、町有林なども含め、人家からなるべく離れていて、より影響の少ない場所を探していく必要がある。

——除染活動費用として一団体に50万円の補助金が交付されるが、詳細を教えてください。

ほしい。

ボランティアで除染活動を行う団体に対して、除染に要する費用として50万円を補助するという県の事業である。町内では約40団体を想定しており、スコップ、草刈り機、高圧洗浄機の購入など、用途は幅広い。



ボランティアによる除染活動

——当地区では5、6月に下水掃除を行うが、今年はできなかった。

溜り槽に現在1メートル位の深さで汚泥が残っているが、汚泥を取ったとしても仮置き場がない。汚泥がたまらないように側溝と同じ高さにしてほしい。

担当課に確認して、回答する。
(地域整備課)

集水槽の泥溜には、①側溝内部の堆砂を防ぐ(枯れ葉などの異物を含む)、②区域内で出た土砂などの異物を下流域に流さない(下流域の維持管理の負担増を防ぐ)、③スムーズな流化を促す、という役割があり設置しているので、ご理解いただきたい。

今後除去される汚泥は、小野町除染計画に基づき適切に管理していく。

——住宅の除染では、屋根、庇、雨樋などは危険な作業となる。高齢者などで対応できない人は、どのようにするのか。また事故が起きた場合の対応など、どのように対応すればよいのか。

当然、個人でできること、できないことを区別する必要がある。基本的には、年間1ミリシーベルト以上になる可能性があるところを除染する考えであり、雨樋などの放射線量が高い場所を優先する必要がある。また個人宅に入ることを考えると、各行政区の協力なしにはできないと思われる。専門業者を雇うことが可能

か、測定を個人に任せるかなど国との調整をしながら進めたい。

——小戸神小学校のプールの放射線量が多いのではなにかと不安である。だいたいわれてもいるようだが今後どうするのか。

各学校のプールの水からは放射性物質の検出はされなかった。なお、いったんは流す考えであるが、防火上の観点から水はためておく必要がある。

——県などの関係者がチェルノブイリへ視察に行っており、報告書が作成されると聞いた。町ではこれを基に除染計画を立ててはどうか。

当該報告書などを参考として、除染計画を策定したい。

放射能の健康被害

——放射能の子どもへの影

響、内部被ばくが心配である。

町民の安全、安心を第一に考え、町内の18歳以下の子どもや妊婦のうち、希望者に対してバッチ式個人線量計を9月に配布し、定期的に確認している。10月に1回目の集計を行い、12月にも集計を予定している。データは役場で管理し、個人ごとにお知らせしている。

仮に問題のある数値であれば、すぐに報告し、対応する。

——個人線量計の測定結果については、個人データはきちんと管理してもらいたい。

十分に注意して管理する。



バッチ式個人線量計